短　報

成人看護学実習（慢性期）における看護教育学上級実践コース院生受け入れの実践報告

髙田　幸江[1)]　高橋奈津子[1)]　松本　文奈[1)]

Implementation Report on the Acceptance of Advanced Practical Course for Nursing Education Postgraduate (Master's Degree) Students in Adult Nursing Practice (Chronic Illness and Conditions)

Yukie TAKADA, PhD, RN [1)]　Natsuko TAKAHASHI, MSN, RN [1)]
Ayana MATSUMOTO, MSN, RN [1)]

〔Abstract〕

At this university, for the purpose of developing human resources, more specifically, students and clinical staff at nursing colleges and universities, with the ability to engage in education and improve the quality of nursing care by directly linking the practical venue of nursing to academic research findings, the Advanced Practical Course for Nurse Education was established in the master's program in 2014. We implemented various approaches in the field of adult nursing practice, in preparation to accept postgraduate students who would select adult nursing practice (chronic illness and conditions) in their practicum. In the first half of the second year, we accepted postgraduate students as Teaching Assistants in a case study ; its objectives were to jointly understand instruction contents, methods, and evaluation, as well as to comprehend student readiness and to build relationships. Before conducting the practicum, we established the students' orientation and the opportunity for them to participate in a meeting with the practice department. During the practicum in the second half of the second year, we established the opportunity to collaborate or coordinate with instructors and clinical practice instructors according to its stage ; after the practicum, we conducted a review on the participation in evaluation and the teaching process. In this paper, we report on the details of the implementation.

〔Key words〕 practice in the science of nursing education, acceptance of postgraduate students, adult nursing practice (chronic illness and conditions)

〔要 旨〕

本学では，看護系大学の学生や臨床におけるスタッフの教育に携わることのできる能力，看護の実践の場を常に学術研究成果と直結させて看護ケアの質を改善していく能力を有する人材の育成を目的に，2014年度から大学院修士課程に看護教育学上級実践コースが開設された。教育実習で成人看護学実習（慢性期）を選択する院生の受け入れに向け，慢性期看護学領域では様々な取り組みを行った。２年次前期は，指導内容，方法，評価の共通理解，学生のレディネス把握と関係構築を目的として，事例演習に，院生をTAとして受け入れた。教育実習前には学生オリエンテーションや実習部署との打合せに参加する機会を設けた。２年次後期の実習中は，段階に応じて学部生指導や臨地実習指導者との協働調整などの機会を設定し，実習終了後は評価への参画と指導過程の振り返りを実施した。本報告では，実践内容の詳細を報告する。

１）聖路加国際大学看護学部　成人・高齢者と家族の看護領域　成人看護学（慢性期） St. Luke's International University, Adult, Gerontological, and Family Nursing (Chronic Illness and Conditions). Faculty of Nursing

受付　2015年10月29日　受理　2015年11月6日

〔キーワーズ〕　看護教育学実習，院生受け入れ，成人看護学実習（慢性期）

Ⅰ．はじめに

本学では，文部科学省「看護系大学教員養成機能強化事業」の一環として，看護系大学の学生や臨床におけるスタッフの教育に携わることのできる能力，看護の実践の場を常に学術研究成果と直結させて看護ケアの質を改善していく能力を有する人材の育成を目的に，2014年度から大学院修士課程に看護教育学上級実践コース（CNE；クリニカルナースエデュケーターコース）[1]が開設された。このコースでは，１年次に看護教育学演習の位置づけで，学部２年生が履修する看護展開論実習（基礎看護学実習）にティーチングアシスタント（教学補助者）として参加し，看護基礎教育における実習指導の実際を学ぶ[2]。２年次には６週間６単位の臨床教育実習が計画されており，２週間２単位は病院における新人教育プログラムを，４週間４単位は学部３年生が履修する，看護学実習でのCNE臨地実習指導プラクティカム（教育実習）において，実習担当教員や臨地実習指導者と協働しながら，ティーチングアシスタントとして実践的・主体的に実習指導に関わるカリキュラム構成になっている[3]。

教育実習においては，成人看護学実習（慢性期）を教育実習として選択する大学院生（以下CNE院生とする）の，学部実習生の実習指導における戸惑いが最小限となり，積極的に教育に参画しながら学ぶ機会とするだけでなく，学部学生の実習目標達成のための学びが保証される必要が有る。このため，CNE院生の受け入れに向け，成人看護学慢性期領域では，様々な準備と取り組みを行った。本報告ではその実践内容の詳細を報告する。

Ⅱ．前提科目の運営を通じた実習指導方針・指導方法の教育的関わり

１．成人看護学実習（慢性期）の概要理解に向けた教育

成人看護学実習（慢性期）は，３年後期の必修科目であり，２週間２単位の実習科目である。本科目の前提科目には，基盤科目の他，専門基礎科目の機能形態学，疾病治療各論，専門科目の成人看護学基礎，成人看護学慢性期実践方法が該当する。我々は，CNE院生が，成人看護学実習（慢性期）において，主体的に教育的関わりができるようになるには，実習前に，協働する大学教員と実習目標や指導方針の十分な共有がなされている必要があると考えた。このため成人看護学実習（慢性期）の前提科目である，３年次前期必修科目の成人看護学慢性期実践方法の演習にCNE院生をティーチングアシスタントとして受け入れることを決定し，その機会を設けられるように演習構成を一部変更した。CNE担当教員には，前提科目の成人看護学慢性期実践方法の演習日程を告知し，CNE院生ができるだけ演習指導に参加できる機会を確保するように協力を要請した。CNE院生には，演習開始前に教育実習に向けた演習指導参加の目的（指導方針の共有，効果的な指導のための学生のレディネスの把握[4]や関係づくりなど）や成人看護学実習（慢性期）の構造（カリキュラム上の位置づけを含む）等について，オリエンテーションを実施した。CNE院生に向けたオリエンテーション内容を**資料１**に示す。

２．成人看護学慢性期実践方法における演習指導の教育

成人看護学慢性期実践方法では，慢性・長期的な疾患を抱え生活する患者・家族を支えるための看護を学ぶにあたり，講義と，演習を組み合わせた構成となっている。講義では，主に基盤となる概念や特徴的な疾患における看護を学ぶ。演習は１と２の２段階の構成としており，演習１では，壮年期糖尿病患者の薬物治療開始に伴う教育入院期の事例を用いて，全体像の把握と看護問題の抽出，目標・看護計画の立案という一連の看護過程の展開について学ぶ。演習２では，演習１の事例が10年経過したインスリン導入期の外来における教育的支援（情報収集及び指導と支持）の在り方を学ぶ。CNE院生には，演習１・２の教学補助者として，演習指導に参加してもらう機会を作った。この指導に際しては，指導方法の共有はもちろんのこと，慢性期看護として学生に学ばせたい内容は何かという科目の目標についても，CNE院生に指導した。

具体的な内容としては，①看護者としての基本的姿勢を養うこと（病いを持ちながら生活することの辛さや困難を理解した上で，患者や家族とかかわること，PCCの概念など），②長期的・慢性的な健康問題をもつ患者や家族のセルフケア支援の在り方を学ばせたいこと（患者や家族の強み・心理，社会面，発達課題への着目など），③生活者という視点を養うこと（今までの人生，今，これからを見据えた看護など），④後期の実習に結び付く演習内容とすること（臨床現場の実情を踏まえた看護，長期的継続的視野に立った看護）の，以上４点を特に意識して学部学生の演習指導に当たることについて，CNE院生と共有した。

実際の演習指導場面においては，学部学生の学習の保証，CNE院生に対する指導の目的で，大学教員とCNE院生がペアとなり演習指導を行った。演習ではグループ

資料１　CNE 院生に向けたオリエンテーション内容

CNE 実習；成人看護学実習（慢性期）の学部生実習指導に向けて

Ⅰ．成人看護学実習（慢性期）の理解
１）前提科目
成人看護学基礎，成人看護学慢性期実践方法，疾病治療各論，機能形態学等
２）レベル積み上げ
①レベルⅡ（資料：本学におけるレベル目標）
・成人（一部老年期含む）という視点（発達課題やライフステージ）
・健康障害に関連する看護
・看護過程⇒実施で終了（レベルⅠ）ではなく，評価⇒修正（情報収集・計画立案含む）⇒実施⇒評価という一連のサイクルを活用しながら看護実践をする。
３）科目において大事にしていること
・看護者としての姿勢（病いを持ちながら生活することの辛さや困難を理解した上で，患者とかかわること，PCC の概念）。
・長期的・慢性的な健康問題をもつ患者や家族のセルフケア支援の在り方を学ばせる（強み・心理，社会面，発達課題への着目，PCC の概念など）。
・生活者という視点を養う（今までの人生，今，これからを見据えた看護）。
・臨床現場の実情を踏まえた看護（慢性期看護：長期的継続的視野に立った看護）を学ばせる（外来実習＋病棟実習）。

Ⅱ．成人看護学実習（慢性期）の目的・目標・方法・スケジュール：別資料１～３，実習要項

Ⅲ．成人看護学実習（慢性期）の科目運営
１）実習前調整
①学生へのオリエンテーション
ａ）全体⇒　7/15（水）15－17　　ｂ）慢性期個別⇒7/24（金）４限
②各施設との調整
ａ）新規部署との調整　ⓐ2015年３月　　ⓑ新規部署合同打ち合わせ会　5/13
ｂ）継続部署との調整　８月～９月
③実習要項準備　　５～６月
④関連科目実習との調整
⑤全体調整（合同打ち合わせ会）　⇒7/1（水）　11：50～12：50
２）実習中
①学生指導
オリエンテーション，患者選択，実習指導，カンファレンス，評価面接
②慢性実習担当教員間調整（指導困難学生の共有と，協働指導含む）
③学部実習担当者・管理者との調整
日々の調整　⇒2015年度は指導共有ツールを作成予定
実習中盤の調整⇒昨年度中間評価アンケート実施
④関連科目実習単位認定者との調整
⑤必要時健康管理室との調整
３）実習後
①成績確定（教員個人⇒慢性実習担当教員間調整）
②全体調整（まとめの会）
③学生科目評価アンケートの検討

Ⅳ．関連科目（成人看護学慢性期実践方法）の演習指導の概要と演習指導参加の目的
全体における目的：指導内容，方法，評価の共通理解，学生のレディネス把握，学生との関係構築
１）演習１　⇒糖尿病患者事例検討（看護過程）
演習指導参加目的：看護過程をどのように教授しているかを知り，実習指導に役立てる
ポイント① PCC の概念を踏まえたケアの基盤（患者・家族中心のケア）を作る。
②患者の問題解決に活用できる「強み」に着目させ，ケアに活かす。
⇒アドヒアランス，セルフケア支援
③病いとの折り合いをつけながら生活しているという視点
⇒心理・社会面・発達課題などを統合した全体像を捉える。
④治療期に伴う問題も看護問題であることを理解させる。
⑤優先順位の考え方，SOE の書き方等々実習に向けた学習をしておく。
２）演習２　⇒糖尿病患者の教育的支援（情報収集，指導のロールプレイ）
演習指導参加目的：患者指導を目的とした情報収集のあり方，教育指導のための指導をどのように教授しているかを知り，実習指導に役立てる
ポイント①長い歴史をもった患者であることを理解させる。（事例２は A 氏の10年後）
② PCC の概念を踏まえたケア（患者・家族中心のケア）の実践を試みる。
③教育的支援における，情報収集のあり方（患者の強み・看護者の姿勢），指導のあり方を理解させる。

Ⅴ．実習開始前までの準備
・実習指導病棟での研修など
・実習目標を考えておく（CNE 自身）

写真１　SOE・看護計画ミニレクチャー

ワークを基盤とした構成としていたため，CNE 院生はグループワークが円滑に進んでいるかの確認しながら必要な学びに到達できるように適宜助言を行う形態で指導に参画した。演習終了後に提出された学部学生の課題レポートについては，教員と評価方法の共有の後，CNE 院生自身もレポート評価を行った。その上で，教員が行うレポート評価と CNE 院生が行ったレポート評価の摺合せを行い，指導とその評価の在り方について，振り返りを行った。

これらの演習指導後に，CNE 院生から，学部学生の実習移行をより円滑にするための目的で，演習後のミニレクチャーと個別相談の機会を設けたいとの希望を受けた。これは，提出された課題レポートにおいて，指導が必要となる共通点がいくつか見いだせたことにより，実習開始前に学部学生に指導しておくことが，限られた実習時間での学びを促進するのではないかという CNE 院生の判断による提案であった。我々は，CNE 院生の演習指導の学びを活かし，主体的に実習指導に関わるための一環として，CNE 院生の提案が実現できるように，協力を行った。具体的には CNE 院生によるミニレクチャーの指導内容を事前に確認し，修正を行ったこと，学生指導の日程確保と学生への告知を行った。実習開始前の９月に CNE 院生による，SOE・看護計画ミニレクチャーを開催した。

参加学生はおよそ40人であった。その時の様子を**写真１**に示す。

Ⅲ．成人看護学実習（慢性期）における教育

１．実習前の教育的取り組み

成人看護学実習（慢性期）では，学部学生のよりよい学びのために，臨地の実習指導者と綿密な打ち合わせを行っている。CNE 院生には，看護基礎教育における実習指導が，学部学生の直接的な指導だけでなく，実習施設の指導者と協働しながら指導していくことも重要な方法であることを理解してもらうために，学部学生へのオリエンテーションや，各実習部署との調整の機会への CNE 院生の参加の機会を確保した。さらに CNE 院生には，実習担当に入る病棟や外来での事前研修や，成人看護学実習（慢性期）の実習目標を踏まえた CNE 院生自身の指導目標の明確化について助言を行った。

CNE 担当教員とは，CNE 臨地実習指導プラクティカム（教育実習）の目的，方法などを共有し，どのように協働していくのかについて確認を行った。また，CNE 院生がよりよい環境で教育実習を行うために，実習部署の管理者や学部実習担当者と CNE 院生がどのように協働していくのかについても，実習開始前までに調整をしておくことについて提案を行った。

２．実習中の教育的取り組み

教育実習期間中は，学部学生の学びの保証の目的もあり，CNE 院生には大学教員１名が指導担当に当たるように配置した。４週間の教育実習期間のうち，始めの２週間は，担当する学部学生の人数や実習部署を絞り，成人看護学実習（慢性期）の実際の流れを理解しながら指導に入れるように配慮した。後半の２週間は，通常教員が担当する学生の人数と部署の指導を行ってもらった。日々，指導内容や方向性の確認をしながら，学生の実習の学びが実習目標のどの部分に該当しているのかという帰納的な振り返りだけでなく，実習目標達成のために個々の学生にどのように指導していくのかという積極的な働きかけについて，実習担当教員と共有できるように配慮した。教育実習中は，学部学生の指導に際し，教員と CNE 院生との指導方針や指導方法の乖離がなく，学部学生の学びを促進することによい影響を与えている場面が多く見られた。成人看護学実習（慢性期）では，実習最終日に学部学生と評価面接を実施している。実習後半では，学部学生の許可が得られた場合に CNE 院生にも評価面接に同席する機会を設けた。この評価面接においては CNE 院生自身も実習を終えた学部学生への助言（学びと課題，今後へのメッセージ）を行う機会を設けた。なお，学部学生には，CNE 院生の実習指導に関する感想を確認し，学部生にとってよかった点と，不利益が生じていないかについても確認を行った。

実習中盤には，CNE 担当教員と中間カンファレンスを持ち，中間地点の CNE 院生の学びの共有と，今後の方向性について共有を行った。CNE 院生の教育実習において，臨地実習指導中に生じたいくつかの追加調整が必要な事象については，適宜 CNE 担当教員と連絡を取り，速やかな問題解決に向けて協働した。

３．実習後の教育的取り組み

教育実習指導全般における振り返りについては，実習終了直後に CNE 院生と担当教員で実施した。学部学生から提出された実習レポート評価への参画と指導過程の

振り返りを，慢性期実習担当教員と CNE 院生とで実施する予定である。

なお，今後 CNE 担当教員を含め，CNE 院生の教育実習の全体振り返り会を予定している。

Ⅳ．まとめ

成人看護学実習（慢性期）における，看護教育学上級実践コース CNE 院生の受け入れについて報告を行った。成人看護学領域では，教育実習である成人看護学実習（慢性期）の実習指導に際し，実習前の指導方針・方法の共有と，学部学生のレディネス把握や関係構築を重視し，春学期から前提科目である成人看護学慢性期実践方法で様々な教育的取り組みを行ってきた。これらの事前の教育的関わりによって，教員と CNE 院生との指導方針や指導方法の乖離がなく，学部学生の学びを促進するための効果的な指導連携につながったのではないかと評価している。これらより，学部実習生の学びを保障しながら，CNE 院生の学びや成長の機会を提供することに貢献できたのではないかと考える。CNE 担当教員との事前調整や実習中の連携体制については，初年度ということもありいくつかの課題が残された。今後の更なる協働に向けた振り返りを行いたい。

参考 URL・文献

1）http://www.slcn.ac.jp/graduate/master/fnf.html
2）http://www.slcn.ac.jp/graduate/syllabus/msb_nursing.pdf
3）http://www.slcn.ac.jp/graduate/syllabus/msb_specialized_nursing.pdf
1－3）［Cited 26 Oct 2015］
4）杉森みど里，舟島なをみ．（2014）．看護教育学第 5 版増補版，医学書院，212－214.